

露頭岩盤上強震観測システム（第1期）

【設置目的】

地震の震源特性が最も精度よく観測される露頭岩盤上において強震観測網を展開し、入力地震動の策定方法が確立されていないスラブ内地震や伏在断層地震の震源特性の解明や、原子力施設が立地する工学的解放基盤の応答特性など、強震動研究全般に必要な大地震の強震記録を取得してデータベース化する。

【概要】

現行の露頭岩盤上観測点を基本としつつも、観測点の一部を撤去あるいは新設するなど研究目的に応じて観測網を再構築した。また最新の観測システムの導入によりデータの品質および取得率の向上を図るとともに、観測点の維持管理業務、およびデータベース作成作業の合理化・省力化を図っている。

なお平成19年度には、BCPの一環として赤城試験センターにミラーサーバサイトを設置し、我孫子研究所の被災時等、緊急時のサブ拠点とすることで研究の継続的と情報発信を可能とする。

【主な仕様】

- (1) 現地観測システム（総計33地点、うち18年度は13地点）：加速度強震計、収録器、周辺機器
- (2) 観測点集中管理用サーバおよびソフトウェア、初期解析用ツール、データベースシステム、赤城ミラーサイト関連システム
- (3) 岩盤内鉛直アレイ（3地点）

【設置場所・時期】

所外、および我孫子地区、平成19年3月



露頭岩盤上に設置された強震計の例



岩盤内アレイ観測点
(右手のマンホール内)と観測小屋



波形収集およびデータベースサーバ